

飯伊 産業経済動向

No.526 2023/1
(5.2.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上) (12月)	県内	6件	(前月 6件)	(前年同月 4件)	(前々年同月 2件)	(令和元年同月 10件)
	飯伊	0件	(前月 3件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 0件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (12月)		56戸	△ 32.5 %	3.7 %	5.7 %	△ 15.2 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (12月)		1.70倍	(前月 1.72倍)	(前年同月 1.54倍)	(前々年同月 1.24倍)	(令和元年同月 1.49倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,852台	1.9 %	5.0 %	△ 10.2 %	△ 1.9 %
	中古車	428台	△ 31.5 %	△ 18.3 %	△ 18.2 %	△ 6.3 %
軽自動車新規登録台数 (一社)全国軽自動車協会連合会 (12月)	新車	3,600台	△ 13.9 %	8.6 %	△ 7.5 %	7.1 %
	中古車	800台	△ 7.1 %	△ 12.8 %	△ 10.6 %	△ 8.7 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	84,325台	△ 9.3 %	8.1 %	15.4 %	△ 19.6 %
	出	84,471台	△ 11.6 %	7.7 %	14.5 %	△ 19.4 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	50,432台	△ 13.1 %	8.1 %	△ 4.0 %	△ 27.3 %
	出	45,913台	△ 18.1 %	8.7 %	△ 8.0 %	△ 28.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	11,787台	7.0 %	3.4 %	35.8 %	△ 5.0 %
	出	11,900台	3.1 %	6.2 %	37.9 %	△ 6.0 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	34,705台	△ 11.4 %	4.9 %	36.5 %	1.5 %
	出	33,416台	△ 15.4 %	5.8 %	36.0 %	1.9 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	33,138台	△ 5.6 %	24.3 %	- %	- %
	出	32,430台	△ 5.8 %	22.9 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		121件	△ 29.7 %	53.2 %	10.0 %	△ 4.0 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		2件	(前月 8件)	(前年同月 9件)	(前々年同月 3件)	(令和元年同月 8件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	18,488人	△ 3.4 %	67.5 %	412.6 %	△ 30.8 %
	飯田～名古屋	11,653人	△ 4.9 %	49.3 %	199.6 %	△ 34.7 %
	飯田～長野	3,480人	6.5 %	21.8 %	19.4 %	△ 58.7 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	12,580人	△ 4.4 %	66.8 %	441.5 %	△ 40.2 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,310人	△ 22.6 %	17.4 %	6.7 %	△ 23.3 %
	右回り	2,341人	△ 19.0 %	13.8 %	11.2 %	△ 18.5 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インキ
[リチウム]100%を使用しました。

再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは悪化、半導体分野以外の機械製造でも景況感悪化が顕著に

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス59.1で、前月から38.3ポイント低下。翌月予測はマイナス38.1で、前月から7.7ポイント低下。半導体分野は前月に続き、受注・販売とも厳しい状況となっている。また、産業機器等の機械部分野でも販売・受注の減少が目立ち、ほとんどの事業者から景況感が悪化したとの声が聞かれた。資材価格の上昇はやや落ち着くも高止まりとの声が多く、電気・ガスの高騰が厳しいとの声も寄せられた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売の前月比は減少との声はやや多く、前年比では増加の声はやや多い。受注の前月比は、横ばいとの声が多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は概ね横ばいとの声が多い。原材料価格が上昇との声は引き続き多いが、製品価格への反映は思うように進まないとの声も聞かれた。

[企業からのコメント]

- ・景況は少しずつ回復してきていたが、下降に転じてきている。この先の受注・販売状況においても不透明感が出てきている。ワールドワイドで電子部品等の入手が困難になったままであり、また景気後退により客先での生産にも影響が出ている。
- ・半導体をはじめとする部品価格が高騰する中、客先への値上げが100%認められず、厳しい状況が続く。

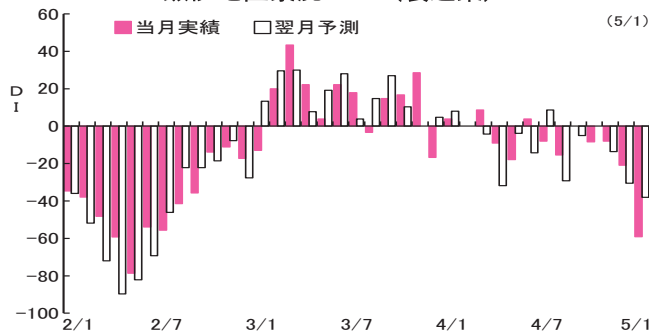
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 販売は全ての業者で前月比減少、前年比でも減少との声が多い。受注は、一部に増加の声もあるが、3月以降は不透明という。
- ☑景況感…… 当月の景況感は悪化～概ね横ばい、先行きについては業者により見方が分かれる。

[企業からのコメント]

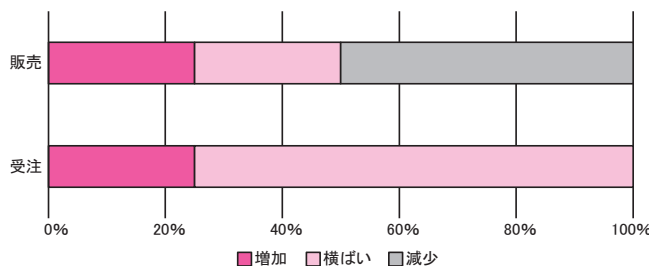
- ・少なくとも2023年前半は下降局面が続くそう。データセンター、スマホ、PCといった半導体系を牽引してきた先端分野への投資が、市況感悪化に伴い計画後ろ倒しになっている。
- ・1月売上は約2年ぶりの低水準。売上低迷の状況に加え、稼働日が少ないことが影響した。2月は回復傾向だが、3月以降は不透明な状況が続く見込み。
- ・主力顧客の半導体メーカーは、中国のゼロコロナ対応次第で回復が見込めると予想している。
- ・マクロ経済の悪化に伴い、各顧客の生産調整が厳しくなり、受注量が大きく低下している。雇用の確保、資金調達、開発品への取組によるリソース不足など、中小企業にとって厳しい環境下となっている。大型投資を行っている企業は短期的に資金面で厳しい状況だが、半導体産業の中長期的な展望を踏まえると投資抑制をすることが難しく、難しい経営舵取りとなっている。
- ・大企業は体力があるため、この低迷期を準備期間と判断しているようだが、中小企業にとっては厳しい局面になる。ただこの踊り場を脱却できればV字回復も見込めるため、この期間に何をするか、何を準備するかが大きな分かれ目になると感じる。

飯伊地区景況DI（製造業）

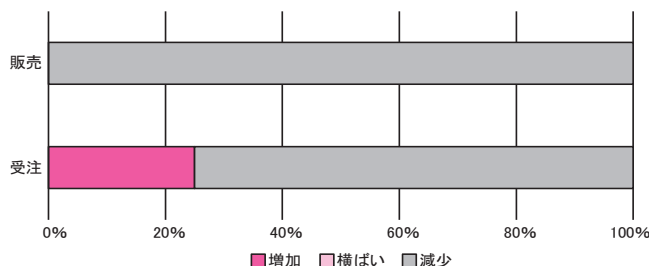


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

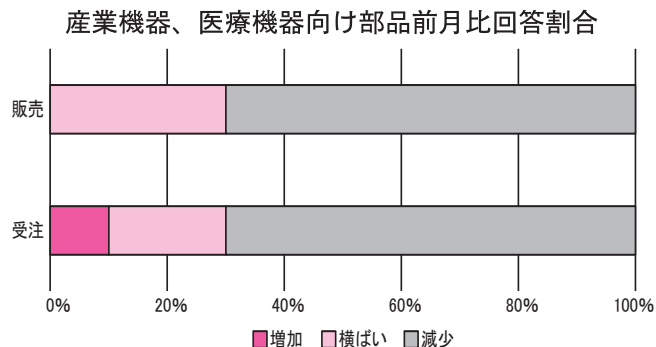


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 販売は減少～横ばい、受注は業者により増減分かれるが、どちらも減少との声が多い。先行きについても減少を見込むとの声が多い。
- ☑景況感…… 現状の景況感はほとんどの事業者で悪化との声。先行きについても同様で、好転を見込むとの声はなかった。



[企業からのコメント]

- ・「医療機器部品、産業用機械関連部品とも売上減少」「12月は前月同様に厳しい状況で、受注実績は今期最低。1月からの受注回復に期待」「景気はズバリ後退で、良くなる材料が見つからない。物価上昇に関しては、早くストップをかけないと経済全体が行き詰まるのではないか」「全般的に下降との声が多く、明るい話は少ない」
- ・「材料や副資材の価格高騰状況は落ち着いてきているが、原材料価格は高止まりしている」「アルミ材が少し値下がり」「電気・ガス代金が高騰している」
- ・「新規獲得品については原材料価格を反映しているが、既存受注品に関しては現状維持の価格」「製造コストの見直しで、製品価格やや上昇」「加工賃の賃上げにより、製品価格を上げた」「材料代のアップ分だけ製品価格を上げた」
- ・現在の状況の原因が一つでないのは理解しているが、どこが整えば回復するのか全く分からない。
- ・コロナに関連して、巷ではマスクの装着から脱着へのタイミングを計っている感じで、今のところ不安が強い。

●漬物、半生菓子、菓子原料等

- ☑売上…… 漬物は前月比、前年比ともやや減少。菓子は前月比やや減少～横ばい。景況感については、大きな変化はないとの声が多い。
- ☑原材料価格… 卵が高騰するなど、値上がりの動きは続いている様子。

[企業からのコメント]

- ・物価高の影響が懸念されるが、菓子は食品ほどの値上げではないようで、売上を確保しているところが多い様子。
- ・当地域の食品製造業は、基本的に消費地に商品を送って生計を立てている。その消費地への物流費の上昇は、地域の競争力が下がることに等しく、悩ましい課題と感じている。
- ・「原材料の値上げが止まらない」「卵の不足により、2月以降は数量が確保できなくなる懸念がある」「食品全般に値上げの波が来ており、お客様の買い控えが感じられる」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売上…前月比は減少、次月以降はやや増加を見込むとの声。

[企業からのコメント]

- ・年明けは順調に注文が入っていたが、寒中に入り大雪が各地で重なり荷物の出荷が止まり、売上が前年と同じになった。
- ・各社とも単価改定したが、引き続いての材料値上がりのため再度の改定を通知しており、繁忙。

●上記以外の製造業

- ☑食品製造…… 販売は、前月比、前年比とも概ね横ばい。原材料価格はやや下降も、今春にかけて上昇見込みという。
- ☑建築用金属製品… 販売は、前月比減少も、前年比では増加。受注残高は前月比、前年比とも増加。
- ☑自動車向け部品… 販売は、前月比では概ね横ばい、前年比では増加。景況感は横ばいという。
- ☑印刷…… 販売は、前月比、前年比ともやや減少。原材料価格の値上がりが続いているとの声。

[企業からのコメント]

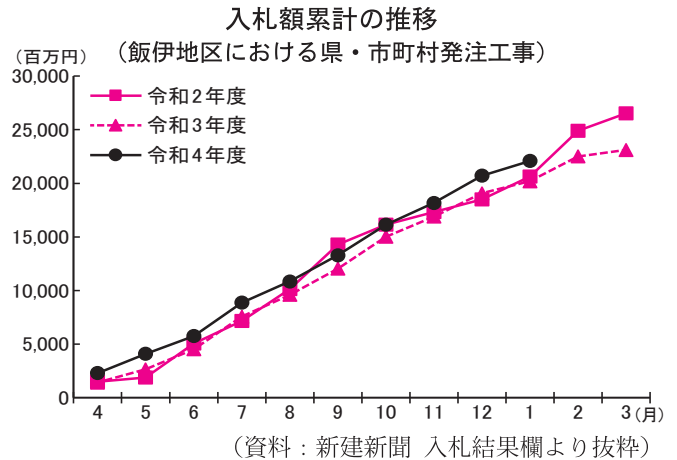
- ・油揚げ業界では徐々に価格転嫁が進んでいるものの、原材料高騰分を十分に価格転嫁できていないところがほとんどで、特に利益面で厳しい状況が続いている。凍り豆腐業界では価格転嫁が進んでいるものの、需要自体の漸減傾向が続いている。
- ・首都圏を中心に好調が続いている。ただ、先々の状況は中々つかめない。
- ・会議資料、記録冊子、パンフレット類等の電子化が進み、印刷が徐々に減ってきているようだ。

建設業

官公需

概況 1月の公共工事入札金額は前年比で21.7%増加、一昨年比では35.1%の減少

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約13.7億円（2月15日調査時点）。前年に比べ21.7%増加、2年前との比較では35.1%減少。
- ☑受注残高…………… 前月比は業者により増減分かれる。前年比では横ばい～増加。景況感は概ね横ばいとの声が多い。
- ☑原材料価格…………… 生コン価格が上昇、もしくは4月以降上昇するとの声が聞かれた。



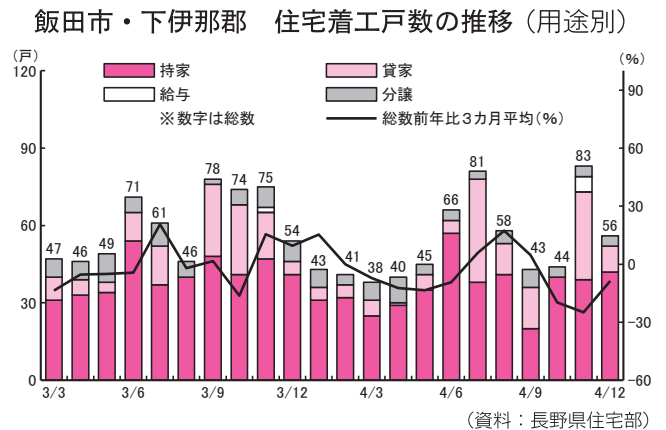
[企業からのコメント]

- ・土木は年度末で工事が完了してくる現場もあるが、補正予算で橋梁補修、舗装補修、法面補修、三遠南信工事、護岸、砂防工事の発注が期待できる。当地区は他の地域と比べて比較的工作があり、それなりに忙しい。
- ・災害関連工事などを受注。今年度中は仕事量に応じた受注は確保できている。
- ・各種資材の価格の値上げは、鈍化したとはいえ依然として値上がり傾向にある。
- ・「施工社員が不足」「業務量はあるが、技術者が不足している」「労務単価の上昇が見込まれる」

民需

概況 令和4年12月の住宅着工戸数は56戸で前年比4%増。
2か月連続で前年比プラス

- ☑住宅着工戸数… 当地区の12月の住宅着工戸数は56戸。前月比33%減、前年比では4%増。持家の戸数は42件と、前年（41件）と同水準。貸家が10件で、前年（5件）の2倍となった。
- ☑原材料価格…………… 一時期に比べると値上げの動きはやや落ち着いたとの指摘もあるが、4月以降も各種資材の値上げの動きはあるとの声も多い。



[企業からのコメント]

- ・「新築住宅はポツポツあるが、相変わらず仕事は少なくて困る。新規の仕事が入らないので、受注残高も段々と減少している」「大型工事や住宅工事は少ない」「大型の箱物工事が少なく、住宅建設も大手メーカーに取られ、地元企業は忙しいという状況ではない」
- ・建築業界は楽ではない。いつの時代も競争が厳しい。

建設資材等

概況 1月の生コン売上は前月比、前年比とも減少。骨材売上も同様の声

- ☑生コン…売上は前月比、前年比ともに減少。特に前月比での減少幅が大きい。
- ☑骨材…売上は前月比、前年比ともに減少との声。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、三遠南信工事、リニア関連工事、工場建設、護岸・治山工事、バイパストンネル工事に関するものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の約4%。
- ・生コン側の当初の予測を大幅に下回っているため、骨材側も売上高が少なくなっている。

商業・サービス業

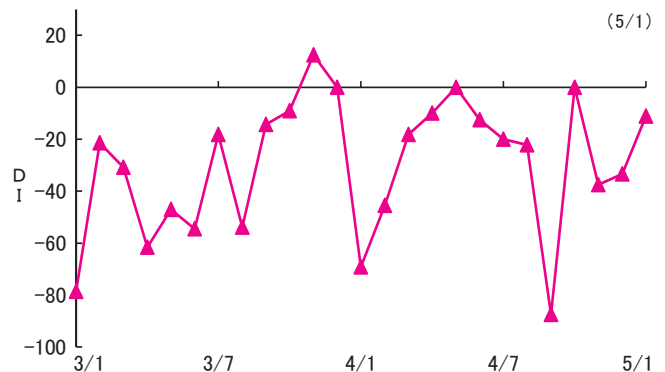
概況 景況感はやや好転。飲食業はやや回復も、宿泊業では年明け低調との声も

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）は、マイナス11.1で、前月から22.2ポイント上昇。

コロナ感染者は1月の3連休を挟み再度増加したが、1月後半は減少傾向となり、飲食業では後半にかけて売上が戻ったとの声も聞かれた。一方、宿泊業からは年明けの動きが低調との指摘があり、全国旅行支援の割引率縮小による影響があるのでは、との声もあった。

飲食業・宿泊業を中心に、売上は前年比増加との声が多いが、同時に、コロナ前の売上には戻っていないとの声も多い。

商業・サービスD I



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比、前年比とも減少

☑売上……前月比、前年比ともに減少との声。

[企業からのコメント]

- ・地域内のコロナ感染拡大と、異常寒波の影響があり、売上が大幅に減少。
- ・仕入業者の廃業があり、商品確保に一時支障をきたす事態となった。

●卸売業 概況 売上の前月比は減少～やや減少。景況感は大きな変化なし

☑売上… 年末を越え、食品や電設資材の売上は前月比でやや減少。青果卸では前月比で大幅に減少も、前年比では概ね横ばいとの声。

[企業からのコメント]

- ・12～1月にかけて寒波の到来により白菜、セルリー、ほうれん草、胡瓜、ピーマン、菌茸等が値上がりしたが、レンコン、玉ねぎ、馬鈴薯等、昨年高値の品目は安値となったため、野菜全体では入荷量やや増、価格やや高かった。果実は、市田柿は前年が豊作だったため今年に入荷減、りんごも価格が低迷し大幅な売上減。一方、国産柑橘と苺は順調な販売となった。果実全体では入荷量は前年並み、価格はりんごの安値が響きやや安となった。
- ・旧設備の更新工事や新築現場での受注によりLED照明の売上が伸びた。また、太陽光発電システムも伸びており、これは太陽光バブル時代に設置した多くのシステムにおいて「パワーコンディショナー」の寿命による更新や売電期間終了に伴う、蓄電池システム導入等による。販売価格への価格転嫁を行っているため前年比売上は増加しているが、利益面では厳しい。
- ・青果物は経費が増加しても、それを売価に反映することが難しく、農家や市場も収益の確保が大変。
- ・2021年から公共料金が右肩上がりに増加しているため、これを転機と捉え「再エネ商材（太陽光・蓄電池）」を中心に商売につなげていきたい。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 コロナ感染者が減少傾向となり、飲食業では景況感好転の声もあるがコロナ前の売上には遠いとの声も多い

☑売上… 飲食業・宿泊業・運輸業では前年比増加との声が多い。飲食業は先行きも増加を見込むとの声が多いが、宿泊業・運輸業では慎重な見方が多い。

[企業からのコメント]

- ・前年がコロナ感染拡大で非常に厳しかったので、前年比では良かったものの、本来の1月の売上ではない。
- ・売上が回復してきたとはいえ、コロナ前には程遠い。コロナ禍が続く中で物価高（特に電気料）になり、収益構造を改善させるべく売価の見直しを行った。同時に料理の見直し等も図り、今のところ評判も良くなってきた感じはある。コロナからの回復を期待しつつ、店自体の若返りも図りながら、今後を見据えた経営に今一度専念したい。
- ・「年を越してもなかなか景気が回復してこない。団体客の確保がままならない状況にあり、スキー客が意外と伸びない。感染症防止対策は上手くいっているが、それでも休館日を設けざるを得ない状況」「昼神温泉では国の補助事業を導入し、多くの旅館で改修を行っている。当館も改装中で、再開に向けて社員教育に取り組んでいる」「全国旅行支援は割引率縮小の影響か、前回のよう利用率ではないように感じる」
- ・今年は行動制限のない中、タクシー売上は前年比増加も、一般の利用状況はまだ厳しい状況。東京のタクシー運賃改定により、全国の地方事業者が値上げとなってくることは避けられず、適正価格で適正基準による経営が重要である。

三遠南信地域交流たずねある記（9）

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅（5）

浜松駅から豊橋駅へ（2）

～ 県境越えに意外な苦勞・コロナによる運行への影響が（4）～

前回（4年10月 No.523）浜松駅を出発し白須賀宿（湖西市）に到着。いよいよ静岡・愛知の県境を越え本日中に豊橋駅に到着する。



一里山の一里塚（豊橋市）

■ 白須賀宿から駆け足で一里山へ

静岡県の東海道白須賀宿から愛知県側のバス停^{ふたがわ}豊鉄バス二川線一里山バス停までは徒歩となる。今回は舞阪～鷲津駅間をJR東海道本線で移動したが、前回浜松駅から湖西市役所行きバスがあったときと同様白須賀宿（JA白須賀支店バス停）着15時38分のバスで行く。

白須賀宿から一里山バス停は地図アプリで見ると1.8km、これまでの徒歩を余儀なくされたどの区間よりも短かく、静岡・愛知県境の越境は楽勝だ。と思ったところが、時刻表を見て驚いた。白須賀着が15時38分、一里山バス停発が16時4分、僅か26分。これは困った。一里山から豊橋駅行きのバスは1日1本で、これを逃すと今日中に豊橋駅へたどり着けない。地図アプリでは徒歩23分となっている。駆け足で行けば何とかなるかもしれない。

ほぼ定刻にJA白須賀支店に到着。早速ダッシュを開始した。しばらくは昔の宿場の面影を残す民家の並びが続く。家並みが途切れるところまで行くと県道173号（湖西東細谷線）に合流する。これは白須賀宿をバイパスする道路で、外部の車に宿場を迂回させている。その先は片側が神社の鬱蒼とした森、反対側は民家や若干の事業所が県道に沿って続いている。東笠子通りとの信号交差点を過ぎると「愛知県」「豊橋市」の看板が立っている。愛知県に入った。

愛知県は途端に家が少なくなり、畑が広がる光景となる。間もなく中央分離帯がある片側2車線の国道1号に接続する。「一里山東」という信号交差点だ。横断歩道を渡って左側の歩道を進む。ここまでかなりの速足で歩いてきた。とにかくバスが来る時間までに間に合わせなければならない。

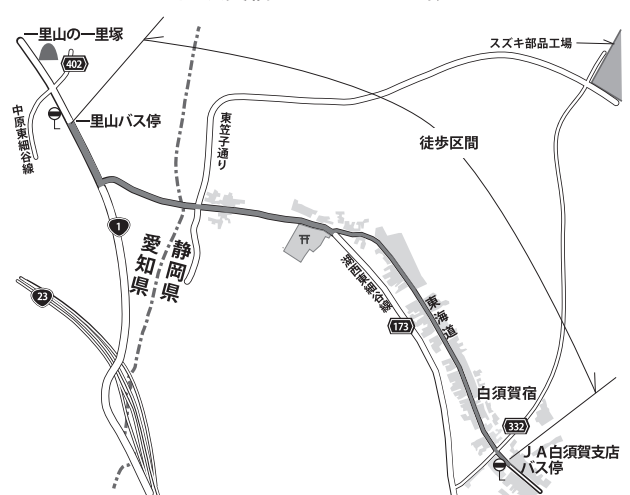
国道1号の両側は畑が多く、運送関係や建設業などの事業所が点在している。やがて、コンビニとコインランドリー、運送関連の事業所がある広い敷地が見えてきた。あれが一里山バス停のあるところだ。間にあった。時計を見ると白須賀宿から15分弱で到着できた。

■ 一里山バス停で東三河の農業を見る

「一里山」という地名は、江戸時代の街道の一里塚と関係があるのかと思っていたが、その通りだった。バス停から少し離れたところに森があり、行ってみると豊橋市教育委員会が作成した説明看板が立っている。徳川家康が慶長9（1604）年に東海道をはじめ各街道に「榎を植えた一里塚を築かせ、全国に普及させた」。この一里塚は「道路を挟んで左右に1基づつあった」が、現在反対側は民地となっていて何もない。森の中を覗くと高さが3メートルはあると思われる塚が見られる。

バス停の周りは一面の畑。田（稲作）にするための適当な水利は見受けられないように思われた。全体にいわゆる赤土分の多い土質だが、当地域の赤土とは異なり礫（かなり大きな石も）が交っていて耕作は大変そうに見えた。その畑で何か見慣れないものが栽培されている。近寄って見ると紫蘇（赤じそ）だった。

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 概略図
白須賀宿～一里山バス停



愛知県「よくわかるあいちの農業2020」によると、愛知県は農作物作付延べ面積は全国で17番目、農業産出額は全国で8位の大農業県。その中で東三河地域は「ビニールハウス、ガラス温室による野菜や花きの施設栽培が盛ん」としている。紫蘇（大葉、赤じそ）については豊橋市、豊川市、田原市を中心に産出額137億円で全国1位（シェア72%）を誇るということだった。



一里山バス停付近の赤じそ畑（豊橋市）

豊橋市に限っても、豊橋市が出荷量、作付面積、出荷量3部門とも県下1位の品目がある。秋冬はくさい、ニラ、冬レタス、夏秋きゅうり、かぼちゃ、冬春なす、夏秋ピーマン、さやえんどう、柿だという（豊橋市HP・ジャパントップスHP）。この他に、春植えばれいしょ、秋冬だいこん、小松菜、冬キャベツ、春ねぎ、秋冬ねぎ、カリフラワー、ブロッコリー、春レタス、チンゲン菜、冬春トマト、いちご、メロン、すいか、梨、ぶどうが県下で3部門とも2位ないし3位となっている。

■またも徒歩での移動となる

バスが到着する時刻になったが、来る気配がない。おかしいと思いつつ停留所の標識を見てみると「新型コロナ感染により平日ダイヤの乗務員の確保ができないことから、当分の間休日ダイヤでの運行を実施する」という表示が貼り付けられている。休日ダイヤということはここまでバスが来ないということだ。豊鉄バスの営業所に電話した。「シンフォニアテクノロジーバス停まで来てくれれば、1時間に1本は運行している」とのこと。

ここに居ても埒が明かないので、国道1号を歩き始めた。地図アプリで約4km位、熱い日差しの下を歩く。沿道は民家や事業所がポツポツとある程度で、バス輸送の需要は多くないと思われた。やがて巨大な工場が見えてくる。正門前に広いスペースがありバス停があった。1時間弱程の移動だった。シンフォニアテクノロジーは旧神鋼電機のことと判る。



豊鉄バス二川線
シンフォニアテクノロジー～豊橋駅
530円

豊橋駅行きは17時10分発。ちょうど退社する社員が乗り込み、立つ人も出る混雑となる。バスは、東海道新幹線と東海道線を潜り県道3号を行く。

JR二川駅に着くと大勢が電車に乗るため降車した。二川駅を下車するとバスは県道に戻り、その後国道1号に入った。夕方の渋滞ノロノロ運転で豊橋市街地に入り、瓦町、東新町、八日間通り、駅前大通りなどを通過し、バスや路面電車の発着で賑わう豊橋駅へと到着したのであった。

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 概略図
一里山バス停～豊橋駅



■コロナ後の路線バスの行方は

果たしてコロナ後に二川線の一里山バス停までの路線が復活するか。公共交通の現状から前途は厳しいのではないかな。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

「カーボンニュートラルに関するアンケート調査」結果 2

本誌11月号で、しんきん南信州地域研究所が令和4年9月中に行った、カーボンニュートラルに対する目下の取組の状況に関するアンケート調査の結果の一部をご紹介します。

今回は、前回ご紹介できなかったアンケート結果をご紹介しますとともに、本アンケートにご協力いただいた公益財団法人南信州・飯田産業センターのコメントをご紹介します。

ご多忙の中ご回答いただいた皆様や、コメントを寄せていただいた公益財団法人南信州・飯田産業センターには、この場をお借りして御礼申し上げます。

●カーボンニュートラルに関する取組や数値目標の利用方法

前回ご紹介した通り、当地域では回答者の47%がカーボンニュートラルに取り組んでいる、ないし取り組む予定があると回答している。

また、取り組んでいる、ないし取り組む予定があると回答者の多くが、環境ISO14001や地域環境マネジメントいいむす21などの数値を、目標として設定すると回答している。

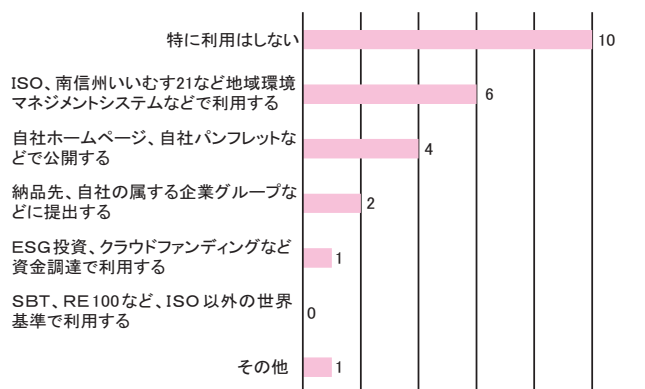
こうしたカーボンニュートラルへの取り組みに積極的な回答者に、自社の取り組み内容や数値目標をどのように利用するか聞いたのが右のグラフである。

これを見ると、目下のところ「特に利用はしない」とする回答が最も多い。次いで多かったのは環境ISO14001

や地域環境マネジメントいいむす21の取り組みの中で利用するというものだった。こうした回答の中には「条例に基づく事業活動温暖化対策計画書の提出と実施状況の報告で利用」との回答もある。

また、「取引先や自社の企業グループなどに提出する」「ESG投資、クラウドファンディングなど資金調達に利用する」との回答も、数は少ないながら見られた。

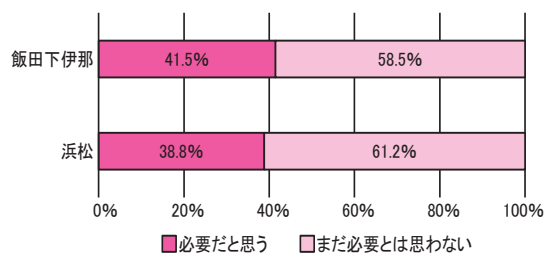
カーボンニュートラルに関する取組や数値目標の利用方法



●1年以内の自社でのカーボンニュートラルへの取組の必要性

本アンケートでは、前回ご紹介した通りCO₂等温室効果ガス排出量の調査、削減要請の有無を尋ねたが、それとは別に、「自社で1年以内にカーボンニュートラルへの取組が必要となりそうか」も聞いている。南信州、浜松共に、約4割前後の回答者が「1年以内に取り組みが必要になりそう」と回答している。前回ご紹介したが、両地域とも、「CO₂排出量の調査、削減要請が、現時点である」とする回答は1割に満たなかったことから、CO₂排出量の調査や削減要請の有無などは無関係に、取組の必要性は意識されていると言えるのではないかと。

1年以内の自社でのカーボンニュートラルへの取組の必要性



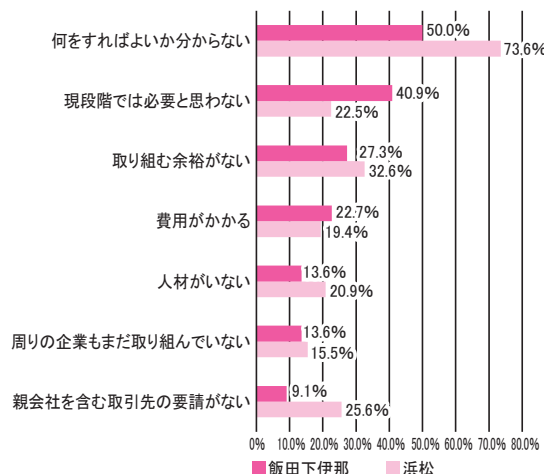
●カーボンニュートラルに取り組んでいない理由

前回ご紹介した通り、当地域では、「カーボンニュートラルに取り組んでいない」とする回答は、54%ある。

そこで、カーボンニュートラルに取り組んでいないとする回答者に、取り組んでいない理由を複数回答で聞いたのが右のグラフである。

当地域、浜松ともに、「何をすればよいのか分からない」「現時点では必要とは思わない」「取り組む組む余裕がない」といった回答が上位に並ぶ。

取り組んでいない理由



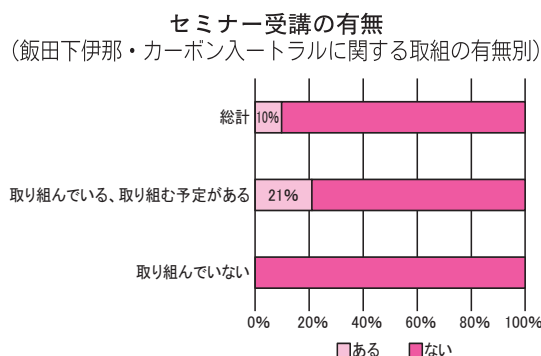
先の通り、1年以内のカーボンニュートラルの必要性については、当地域、浜松とも6割前後が「まだ必要とは思わない」と答えている一方、取り組んでいない理由として「現段階では必要とは思わない」との回答割合に差が見られ、浜松の回答割合は当地域に比べ小さい。その理由は定かではないが、取り組んでいない理由として、浜松では「親会社を含む取引先の要請がない」との回答割合と、「現段階では必要とは思わない」との回答割合が近似しており、親会社等の要請がないため現段階で必要とは思わないと考える回答者もあるように思われる。

●カーボンニュートラルに関するセミナー等の受講の有無

当地域の回答者には、過去にカーボンニュートラルに関するセミナー等の受講経験があるかどうかを聞いた。

全回答者のうち、セミナー受講経験があると回答は10%であった。

カーボンニュートラルに取り組んでいる、ないし取り組む予定があると回答者に限っても、セミナー等の受講経験があると回答は、21%に過ぎなかった。



(飯田信用金庫 しんきん南信州経済研究所 中村 達)

●結びに代えて：公益財団法人南信州・飯田産業センター「カーボンニュートラルに対する取り組みに関して」

今回の調査を通じて、当地域におけるカーボンニュートラルに関する企業の理解度や浸透度が、他地域との比較において明確になった。カーボンニュートラルに関する実際の取り組み状況については、他地域に比べれば高い傾向があるものの、政府の掲げる「2030年度に温室効果ガス排出量2013年度比46%削減」という目標からすると、特に規模が小さい企業ほど取り組みが進んでいないという実態が伺い知れる結果となった。

今後、カーボンニュートラルに向けた取組状況が、企業の競争力、つまり企業の収益に直結するようになる。BtoB取引では、大手を中心に取引先からのCO₂削減要請の動きが広がるとされている。BtoC取引でも、消費者のカーボンニュートラル意識の高まりで、より環境負荷の少ない製品・サービスを選択する傾向が高まっていく。何より、カーボンニュートラルで現在高騰しているエネルギーのコスト削減や安定化が実現できることは大きいだろう。

企業は、カーボンニュートラルへの対応を、単なる負担と捉えるのではなく、GX(グリーン・トランスフォーメーション)と呼ばれる、競争力を高める機会と捉えて取り組みを進めることが重要になる。

当地域でも、比較的規模が大きい企業では、カーボンニュートラルに関する取組が始まっている。各企業においては、一歩ずつであっても確実にカーボンニュートラルに向けた取組を進めていく必要がある。

具体的な取り組み方法については、各社のビジネス形態などに応じた多種多様な方法があると思われるが、紙面をお借りして、当センターの事業も含めた、いくつかの支援メニューを紹介したい。

まず、カーボンニュートラルそのものや、必要性、取り組みの進め方について理解するために、経産省や環境省などで実施されるオンラインセミナーを筆頭に、飯田信金のほか、長野県や産業振興機構などの産業支援機関のセミナーなどへ参加し、経営者から従業員まで幅広い層が知識の獲得や意識の醸成に取り組むことが必要である。多くのセミナーが無料で受講できる。当センターにおいても、飯田市ゼロカーボンシティ推進課との連携で、脱炭素経営の取組に資する「事業者向け省エネセミナー」などを随時開催しているので、ぜひご参加いただきたい。

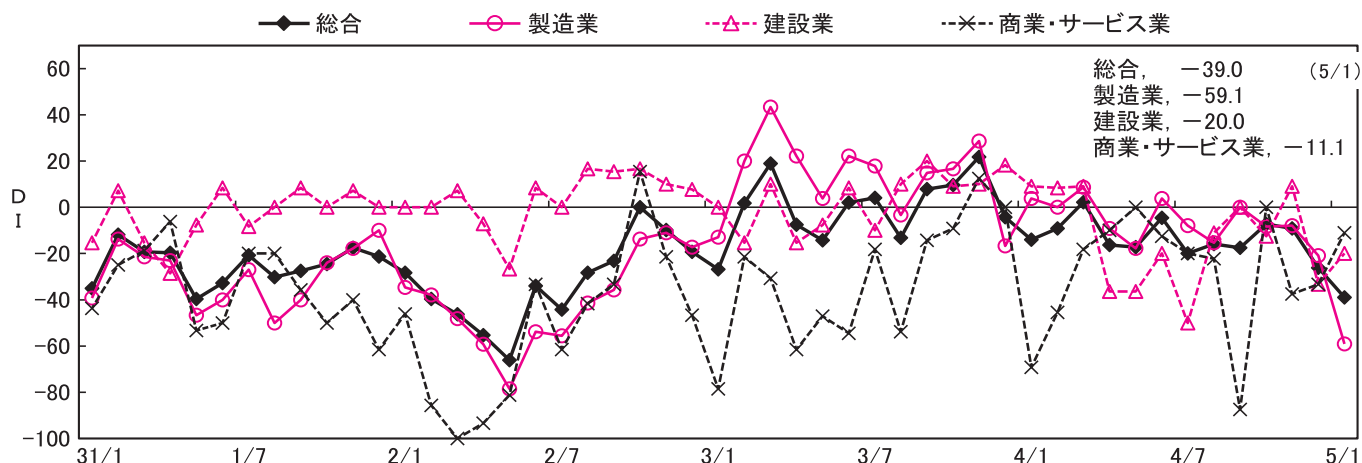
GXを実現するためには、企業のカーボンニュートラルへの取り組みをするのではなく、どのように社外へアピールしていくかが非常に重要である。SDGs全般の枠組みとして、「長野県SDGs推進企業登録制度」がある。SDGsに関する具体的な取り組み(アクション)を登録・公表できるほか、登録マークの使用も可能である。

その他、設備投資などが伴う取り組みには資源エネルギー庁の「省エネ補助金」が、ITによるエネルギー効率の向上の取り組みには中小機構の「IT導入補助金」が活用できる。

当センターでも今後、特に再生可能エネルギーの推進に向けた産学官民が連携した取り組みを予定しているところであり、多くの企業の皆様にご参画いただきたいと考えている。

飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI（本誌調査）



「第53回 しんきん経済講演会」のご案内

令和5年3月7日、恒例のしんきん経済講演会を開催します。
 今回の講師は、芝浦工業大学教授 マーケティングアナリスト 原田曜平先生。
 皆様のご聴講をお待ちしております。

第53回 しんきん経済講演会

演題 **Z世代の活躍で成功をつかめ!**
 ~超人手不足時代の若者の育成、採用~


講師 芝浦工業大学教授
 マーケティングアナリスト **原田曜平氏**

令和5年 **3/7** 火
 13:30~15:00

聴講方法は2通り!
 ライブ配信にてオンライン聴講または
 会場【シルクホテル】にて聴講

聴講無料

※申込みが必要です。



ご聴講方法は、【zoom ウェビナーによるオンライン聴講】と、【シルクホテル会場聴講（定員80名）】の二通り。

いずれも、飯田信用金庫ホームページの専用フォームからお申し込みください。
 (お申込み締切：令和5年3月3日)

URL <http://www.iidashinkin.co.jp/region/events/shinkin/>

🔍



お問い合わせ：お取引の飯田信用金庫各支店、または飯田信用金庫地域サポート部（0265-53-5811）まで。